

知事 大阪商業大学教授として、都市政策、文化政策、地域経済、またフィールドワークを通して持続可能な地域づくりを研究しておられる狭間恵三子さんは、2023年11月に「瀬戸内国際芸術祭と地域創生 現代アートと交流がひらく未来」を出版されました。多様なキャリアと広い見識をお持ちの狭間さんに、執筆を通じて見えてきた瀬戸内国際芸術祭（後は瀬戸芸）やその舞台となる瀬戸内海の魅力などについてお話を伺います。

狭間 生活空間にアートを置き、住民を巻き込みながら地域を元気にするというアートプロジェクト

アートを通して
社会課題と向き合う

瀬戸内海は
香川県のアドバンテージ

から聞こえてきました。ただ面白いだけじゃないことに気付きます。島の人々も楽しそうで、訪れた人も一緒に参加しているような気持ちになり、そのうちお世話する側、芸術祭を支える側になるというような、能動的に参加していく仕組みができていたのです。その仕組みを調査し、分析し、読み解きたいと思ったのが本を著すきっかけでした。

知事 瀬戸芸の作品が力をより発揮する要因の一つに瀬戸内海という場の力があると著書の中で述べていましたが、私も瀬戸内海は香川県の

トが、全国で繰り広げられるようになったのが1990年代。そして、1995年1月に阪神淡路大震災が起こります。まだ多くの方が避難所で暮らしていらつした2月、文化芸術は傷ついた人たちに生きる力、癒やしを与える、被災地の中から「アート・エイド・神戸」の活動が始まります。その2年後に南芦屋浜復興住宅を造る際のアート&コミュニティ計画では、知らない人、新たに生きていくときに、アートが媒介となり、コミュニケーションの手段になりました。アートプロジェクトの力を実感しました。

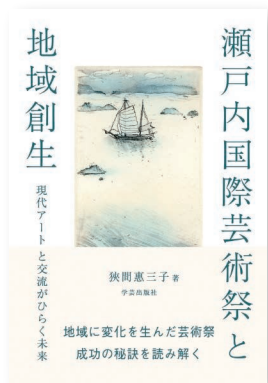
知事 お話を伺って思い出したのは、太平洋戦争終戦の4年後に完成した高松美術館（高松市美術館）です。高松も空襲に遭い一面焼け野原でした。衣食住に不自由していた時に、人々は力を出し合って美術館を造ろうとしました。震災もそうですが、心が折れそうなときにアートの力が心に響くんですね。

狭間 新潟県で開催された「大地の芸術祭」では、過疎地域の問題解決のきっかけになるのではという期待がありましたね。2010年に瀬戸芸が始まり、船で人を動かすというのは大変なことですので、どうなるのだろうと思っています。たら、「とても面白かった」という声があちこち

知事対談

HAZAMA EMIKO 狭間 恵三子 × IKEDA TOYOHITO 池田 豊人

アートと瀬戸内海のチカラ



大阪府堺市生まれ。大阪市立大学大学院創造都市研究科博士（後期）課程修了。博士（創造都市）。サントリー株式会社、堺市副市長を経て現職。専門は、都市政策、文化政策、地域経済。フィールドワークを通して、持続可能な地域づくりについて研究している。立命館大学衣笠総合研究機構上席研究員、西日本旅客鉄道株式会社取締役 監査等委員、NPO法人こども環境活動支援協会代表理事を兼任。2023年11月「瀬戸内国際芸術祭と地域創生 現代アートと交流がひらく未来」を発行。

大阪商業大学公共学部教授
狭間 恵三子

一番の地の利であり、アドバンテージであると考えています。

狭間 古代から人も物も情報も

瀬戸内海を通じてやってきました。

都は奈良や京にありましたが、瀬戸内海をどう制するかというのが、国づくりの上で重要でした。また、景観だけとつても、江戸時代末期から多くの外国の方が訪れ、その素晴らしさに驚愕（きょうがく）しています。船上から見ても山上から見ても美しい瀬戸内海ですが、実際に島々に通い始めると、どんなに近い島同士でも、風景も住まいのあり方も食も隣の島と違っています。歴史の力、景観の力、島々固有の力、それら全てが瀬戸内海の場の力です。

知事 島も魅力的ですが、今回の瀬戸芸では沿岸部の一部（さぬき市、東かがわ市、宇多津町）が開催地に加わります。また瀬戸芸のマザー・ポートでもある高松港があるサンポート高松地区に、来春、中四国最大級1万人収容の「あなぶきアリーナ香川」がオープンし、さらに魅力的なイベントなどを開催することができます。

狭間 香川県は讃岐七富士と言われるように、陸の景色も独特で地形そのものがアートです。その陸地の景色を海から眺めるのも興味深いものがあります。ですから、陸地を移動するばかりではなく、沿岸部へ海から上陸できると、新鮮な驚きを感じるのではないのでしょうか。陸と海の境目の面白さ、香川の魅力は尽きません。

香川県知事
池田 豊人

違う視点といえば、瀬戸芸のすごいところは、そうした幸福な感動を味わえるだけでなく、負の遺産も隠さず突きつけてくるところです。大島のハンセン病の歴史も、島で生きた人々の心の傷も。もちろん過疎化という現実も突きつけられます。厳しい現実や社会課題にアートを通して向き合うわけです。文化の公共性も私の研究テーマの一つですが、瀬戸芸の公共性は、経済効果等だけではなく、社会課題に向き合うところにもあると思います。

知事 その言葉を大切に受け止め、これからの瀬戸芸のあり方を模索したいと思っています。瀬戸内国際芸術祭2025は、春会期から秋会期まで通算107日間開催されます。2025年の瀬戸芸はもちろん、芸術祭に関係なく鑑賞できる作品もたくさんありますので、いつでも香川を巡っていただき、狭間さんにはさらなる魅力や地域活力の展望を見いだしていただきたいと願います。本日はお忙しい中、ありがとうございます。